

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201239		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホーム サンライフ堀越		
所在地	青森県弘前市大字柳元293		
自己評価作成日	令和元年8月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和1年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内にこども園が隣接しており、日常的に園児と交流を持ち、季節の行事等、一緒に行って、積極的な世代交流をホームの特徴としている。 ホーム内は利用者の暮らしやすい空間をモットーとし、無理強いせず、自分らしさを持って生活できるように支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホールは広く、天井は高く、採光が十分であり、窓から見える岩木山と周囲に広がる田んぼの風景に安らぎを感じながら、ホームの理念である「あずましく、自由に、毎日楽しく」を大切にして生活を送っている。 ホームは民家から少し離れているが、隣接のこども園と積極的に関わっており、子供達と触れあう機会が多く、園児が毎月おやつの配達に訪れている。こども園の運動会を見学に出かけたり、ホーム主催のふれあい運動会に園児が参加する等、交流を行っている。町内会にも加入しており、地域密着型サービスの役割を理解しながら、地域との交流に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方々と交流を持ち」と理念の中にある、基本理念は朝の申し送りで全職員で唱和しながら、共有や実践をしている。	「あずましく 自由に 毎日楽しく」というホーム独自の基本理念を作成しており、地域密着型サービスの役割を反映させたものとなっている。職員は法人の努力目標と一緒に毎朝唱和し、継続することで理念への理解を深め、周知や共有化を図り、日々のサービス提供に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	堀越公民館や堀越こども園と交流を持ち、行事等の時は出かけたり、参加や協力をしている。	ホーム周辺は田んぼに囲まれ、民家から少し離れているが、町内会に加入しており、隣接のこども園の行事を通して地域住民と触れ合う機会を多く持っている。また、地域の公民館の活動に積極的に参加して、地域の一員として繋がりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭に作品を展示したり、サロンを開催して地域の方々との交流を通じて、理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、事業の報告をしながら意見をいただいている。その結果を全職員で共有してサービスに活かしている。	2ヶ月に1回、定例的に運営推進会議を開催し、毎回案内を出している。会議ではホームでの取り組み等について報告して、委員から活発な意見やアドバイスをもらい、サービス提供に活かしている。法人本部からも出席があるほか、消防団も委員となっており、避難訓練の際は協力していただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者状況や連絡事項はメールで行っている。運営推進会議に出席していただき、情報提供をお願いしている。	運営推進会議には市担当課職員と地域包括支援センター職員が参加しており、タイムリーな情報提供があり、アドバイスをもらっている。2ヶ月に1回発行の広報誌も配布しているほか、普段もメールのやり取りで報告や連絡、相談できる関係を構築している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯のため、法人の方針でやむを得ず行っている。身体拘束は極めて危険がある場合以外は、職員で話し合い拘束しないケアに努めている。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備すると共に、運営推進会議後に委員にも参画してもらって委員会を開催している。法人の方針で、自動ドアの外にあるドアに鍵は掛けているが、日中は自由に出入りができるように職員が見守りしている。無断外出時に備えて、消防団や町内会長等に協力を呼びかけており、顔写真を準備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての研修等に参加し、報告しながら全職員で理解を深め、言葉の虐待にも気を付けながらホーム内で注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加して、理解を深めている。成年後見制度を利用している利用者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもって説明し、同意をその都度もらいながら理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、いつでも投稿できるようにしている。また、年1回は家族アンケートを実施し、職員で検討して改善に繋げている。	利用者からの意見は少なくなっているが、言動等から察するように取り組んでいる。運営推進会議には家族にも参加してもらっているほか、毎月手紙で利用者の暮らしぶり等を担当者のコメント入りで報告している。また、年1回家族アンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初め等、随時、業務等に関して意見を提案できるように工夫している。	月1回職員会議があり、管理者から法人の決定事項等を伝えている。入所の決定については、管理者が職員の意見を聞きながら行っているほか、職員との個人面談の機会があり、要望等を聞き、ホームの運営等に活かしている。異動については利用者との関係に配慮しながら、法人と職員が直接話をし納得の上、決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務規定等は法人から年1回説明があり、いつでも閲覧できる所に置いている。また、職員の将来の目標等を聞き、資格等は達成できるように援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立てながら、職員の力量・ニーズに合うよう、研修に全職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内部研修として、グループホーム内での内部研修を実施し、それぞれの良い点を取り入れながらサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前からの生活を継続できるよう、家族や居宅介護支援事業所より情報をもらいながら、本人の様子を観察し、安心していただけるようにサービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けている段階で家族の不安な所等を聞き、小さな事でも相談できるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けている段階で家族の要望を確認し、居宅介護支援事業所等にも相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能や趣味、嗜好を取り入れながら暮らしていけるよう、関係作りをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族にしかできない事は家族に相談しながら 協力していただき、共に支援していくよう に働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活を継続できるよう、美容院 等、利用者の要望を聞きながら支援してい る。	入所時のアセスメントでこれまでの暮らしに 関する情報を把握して、馴染みの関係の継 続を支援している。利用者の意思表示が少 なくなってきたため、職員から声がけをし て、ドライブで馴染みの場所に行ったり、行き たい場所があればすぐに対応できるようにし ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者の人間関係や性格等を把握しなが ら、無理強いせず、レクリエーション活動や 館外活動への参加を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の介護サービスの利用等につ いて確認し、必要に応じて相談を受けてい る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者の要望を聞きながら、できる範囲で 叶えられるように支援している。どのよう にすればできるか検討している。	利用者の思いや希望、意向を十分に把握で きない場合は、日頃の表情によりストレス等 を把握できるように職員間で情報を共有し て、利用者の視点に立って意向を把握するよ うに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	以前の暮らし方をサマリーや相談記録、 フェースシートで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者の表情・言動等で状態を把握し、記 録しながら申し送りや把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来館した際に現状を報告しながら、要望や方法を聞き出している。カンファレンスの時、職員が意見を出しやすいような雰囲気を作り、良い意見があった場合は取り入れている。	利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、アセスメントで詳細且つ具体的に情報を収集し、利用者の意見や要望等を十分に聞き、全職員の意見や気づき、必要に応じて家族等の意見等を勘案し、具体的な計画を作成している。モニタリングは6ヶ月に1回、見直しの場合は随時行っている。入院中も状態確認に行く等、常に利用者の身体状況に変化がないかを観察・把握し、それに応じて見直しの有無を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングシートを記入しながら支援していき、結果を報告して、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の主介護者が家族として支援できなくなった時、他の家族に報告して、市役所や地域包括支援センター等と相談しながら手続き等に協力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な地域のサービスを把握しながら、利用者の希望を取り入れ、援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を重視し、継続受診を援助しながら、利用者の状態に合わせて家族と相談し、支援している。	入所時にそれまでの受療状況を把握し、継続受診の有無は利用者や家族と話し合って決めている。通院は家族対応としているが、無理な時にはホームで対応している。受診結果は毎月の手紙で報告し、共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を訪問看護師に報告・相談して指示を受け、受診等を援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはホームでの生活状況を報告し、退院する際は利用者の状態確認や説明をいただきながら、退院後の支援について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に重要事項説明書にて重度化した時の説明をし、同意をもらっている。重度化した場合は小まめに家族へ状況の説明を行い、方向性を確認しながら支援している。	「重度化対応に関する指針」や看取りについても具体的な指針を作成しており、医療との連絡体制等を整備している。早い段階から利用者や家族に説明し、話し合い、同意書をもらっている。状況変化がある時には随時、話し合いを行っている。また、ホーム内に訪問看護ステーションを併設しており、看護師と24時間連絡を取れる体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を2年に1回実施し、全職員が受講している。また、マニュアルを定期的に確認しながら意識的に適切な対応を心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回以上実施している。6月には地震の避難訓練を実施している。夜間想定避難訓練には消防団にも参加していただき、いざという時には協力してくれることとなっている。	夜間も想定した避難訓練を職員と利用者が一緒に行い、役割分担や避難経路、連絡体制等を定め、いざという時に落ち着いて対応できるように訓練を行っている。また、実際の体験を基に、避難した後の部屋にタオルで目印を付ける等して所要時間を計り、訓練後に評価・反省をして次の訓練に活かしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格等を尊重し、言葉をかけて対応している。	馴染みの関係になっても敬いの気持ちを忘れないよう、利用者に対する声がけについて配慮している。個人情報(写真や氏名)をパンフレットや広報誌に掲載したり、ホーム内の表示や製作品を展示する場合の使用については同意書をもらって取り扱っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞き入れられるように問いかけ、納得して生活できるように声がけ援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重し、マイペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院でのパーマ・髪染め等、希望する時はできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日には好物の物を出したり、日頃から嗜好を把握しながら献立に活かしている。利用者のできる範囲でお盆拭きや食器拭き等、手伝っていただいている。	献立は法人の管理栄養士が作成して、利用者の苦手な物等は目の届く場所に貼って、個人の好みに応じて代替え食を提供している。職員も交代で休憩しながらも可能な限り一緒に席に着いて、食べこぼしをサポートしたり、偏りなく食べるように促す等、楽しい食事時間となるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成し、栄養バランス等を管理している。食事量や水分量は毎食時に把握している。誕生日等には嗜好に合わせ、献立に組み入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入れ歯の洗浄を促し、できない人には援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録しながらトイレ誘導を検討したり、会議で検討している。	自室にトイレがあり、排泄の際は部屋に誘導して羞恥心やプライバシーに配慮して速やかに行っている。入院により紙オムツ使用になっても、退院後はできるだけパンツ型紙オムツを使用して排泄できるよう、随時、見直しを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな人には運動・食事(乳飲料等)を取り入れながら、便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入る順番やお湯の温度等、利用者一人ひとりに合わせながら、ゆっくり入浴できるように支援している。ユニットの入浴日以外でも希望があれば入浴できる。	入浴日は週2回と決めているが、希望があれば入浴できるようにしている。入浴習慣や好み把握した上でそれらに配慮し、入浴剤等を使ったり、体調に注意しながら利用者の望む入浴ができるように支援している。また、羞恥心に配慮して、できる事は自分でやらせながら転倒に注意して見守り、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おおまかな1日のスケジュールはあるが、利用者のペースを尊重し、休息を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回お薬情報を確認してファイルを作成しながら、薬剤師とも連携を取りながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味等を取り入れ、役割を持って生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑に行きたい、温泉に行きたい等の希望を家族に説明し、協力してもらっている。	ホーム周囲の散歩には、いつでも出かけられるようにしており、外出ドライブの希望にはすぐに対応している。温泉や墓参り等、ホームで対応できない時は家族に協力を呼びかけている。小さな菜園があり、利用者は収穫を楽しみに水かけ等の作業を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者に関しては、どのくらいの金額を持っているか把握し、家族に紛失の際の対応について説明しながら対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を使い、掛けたい時に電話を掛けている。家族から手紙が来た時や返事を書きたい時は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、一定時間に温・湿度を記入しながら管理をし、季節に応じた飾り付けや花を飾る等、季節感を出すようにしている。	ホールは天井が高く、採光が十分であり、開放感のある空間となっている。窓から見える岩木山と周囲の田んぼから季節の変化を感じることができるほか、ホーム内の季節の装飾も工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室のため、自由に独りになることができるようになっている。ホーム内を自由に散歩することができ、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持って来ていただきながら、暮らしを継続していけるように支援している。	自宅で育てていた観葉植物や愛用していた物を持ち込んでおり、入所前と同様の生活を継続していけるよう、職員と相談しながら、落ち着いた生活を送ることができるような居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー設計で車椅子でも自由に移動でき、見守り等がしやすいように造られている。		